

# 令和3年度 横浜市立駒林小学校 出前授業 実施報告

## はじめに

- 公共交通などを適度に利用する生活への転換を促す「モビリティマネジメント」の一環として、様々な移動手段を目的や状況に応じてかきこく使い分ける視点を学ぶ授業を駒林小学校で実施しました。
- 駒林小学校では、総合学習の時間に「環境」をはじめ、SDGsについて自分で考え、意識し選択することを心がけ学んでいます。今回の出前授業では、地球温暖化の話や横浜市でのCo2排出量の話および基礎知識として、バスなどの公共交通の現状や、移動を選択する上で考えてほしいことなどについて伝えました。
- 駒林小学校近辺はグリーンラインが開通してから電車利用が増えたようですが、今回の授業では、環境にもやさしいバスを身近に感じてもらい、利用につなげてもらうことがねらいです。

- 【日時】令和3年10月25日(月) 1～3校時  
令和3年10月26日(火) 1～3校時
- 【対象】横浜市立駒林小学校  
5年生1・2・3組(90名)  
6年生1・2・3組(91名)
- 【内容】①座学  
「人にも地球にも優しい「かきこく移動」を考える」  
②個人ワーク

## 小学校周辺のバス停



学校へのアクセス  
グリーンライン 日吉本町駅から徒歩5分

## 1 出前講座の全体概要

- 授業の内容・資料は、できるだけ学校の意向に沿ったものとするため、事前に先生と調整を行いながら決定しました。
- 当日の授業は、コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、教室での座学の実施となりました。通常はグループワーキングを行いますが、今年度は個人ワーキングとしています。
- 今年度からiPadを使った授業を行っており、ワーキングでは児童がそれぞれiPadを使って作業に取り組みました。

■ 授業の様子



## 2 授業の内容

- 授業の冒頭で SDGs について触れ、公共交通をかしこく使うことは「11.住み続けられるまちづくりを」と「13.気候変動に具体的な対策を」に関連することを伝えました。
- 温室効果ガスの原因でもある二酸化炭素が日頃どのような場面で排出されるか、またクルマがもたらす環境への影響や、バスの利用が減っている現状などを説明しました。
- 子どもたちは、普段バスを利用する機会少ないようで、子どもだけで移動するときは自転車を利用するようですが、クルマの移動も多いようでした。
- 後半の個人ワーキングでは、こちらが用意した条件に応じた適切な移動手段を考えてもらいました。
- 移動手段を選ぶときは「環境」「お金」「便利さ」など様々な視点から見るのが大切であり、「行き先や状況に応じて、かしこい移動を考える」ことが大切であることを伝え、授業を終えました。

■ 座学に用いたパワーポイント(一部)

**ちょっと質問**

ヒト1人を、1km運ぶとき、**クルマは、バスの何倍、二酸化炭素を出すでしょうか？**

みんな一緒に

**だんだん利用が減ってきたバス**

市内を走るバスの1日乗車人員

22年間で約11%減っています

**かしこい移動を考えてみよう**

(1)～(3)の場合、どんな移動がよいか考えてみましょう

(1) 友達と2人で、日吉駅へケーキを買いに行くには？  
(2) 高れい君の方と2人で、むさ-北駅へ家電製品を買いに行くには？  
(3) 串いすの人と2人で、みなとみらいへ映画を見に行くには？

28

■ 個人ワーキング

おでかけに電車を使ったときと、クルマを使ったときでは、二酸化炭素の量で、移動の時間は、どのくらい変わるだろうか？ みなとみらいの「ランドマークタワー」に行くときのことを考えて、下の□を、お計算や足し算しながら、うめてみよう。

(ア) 電車のみで行くとき	(イ) 電車と徒歩で行くとき	(ウ) クルマのみで行くとき
<b>ランドマークタワー</b> 目的地 電車 日吉駅(徒歩)からランドマークタワーまで 距離 約2.5km(徒歩約30分) 乗車料 約100円 二酸化炭素排出量 約10kg	<b>ランドマークタワー</b> 目的地 電車 日吉駅(徒歩)からランドマークタワーまで 距離 約2.5km(徒歩約30分) 乗車料 約100円 二酸化炭素排出量 約10kg	<b>ランドマークタワー</b> 目的地 クルマ 日吉駅(徒歩)からランドマークタワーまで 距離 約2.5km(徒歩約30分) 乗車料 約100円 二酸化炭素排出量 約10kg

## おわりに

- 児童からは「大人になってもバスが残ってほしいのでなるべくバスを使おうと思った」「バスは二酸化炭素を多く排出すると思っていたが環境にやさしいということを知った」などの声があり、バスについて新たな知識を身につけてくれました。
- 移動の工夫によって二酸化炭素の排出量の削減に寄与できるなど環境対策に直接自分たちも貢献できると感じた児童もあり、SDGs の取組が日常に活かされる必要性を感じたようでした。
- 成長していく過程の中で「便利なクルマに頼りすぎず、バスで行ける所はバスで行くこと」を日頃から心掛け、家族やお友達などと少しずつ実践してほしいと思います。